

# 大震災とハンセン病をテーマに

人文・ジャーナリズム学科

山田ゼミ 藤森ゼミ

文学部人文・ジャーナリズム学科の山田健太、藤森研二教授ゼミ4年次生のビデオ卒業制作発表会「伝えるということ」が2月15日、神田キャンパスで開かれた。



女川町の震災遺構を紹介する山田ゼミ生

山田ゼミは、東日本大震災(2011年)の震災遺構について、藤森ゼミはハンセン病問題について、発表を聞いた。

山田ゼミでは東日本大震災以降、東北の被災地各地を訪ねた。13年8月には、ゼミ生13人が宮城県牡鹿郡女川町を訪ね、津波により横倒しになったまま、津波の爪痕を「証言」する三つの震災遺構(薬局「女川サブリメント」、宿泊施設「江島共済会館」、旧女川交番)の存在を知る。

また、町立女川中学校内にある高さ2.5メートルの「いのちの石碑」を紹介。自宅を流された3年生らの発案によるもので、石碑はほかにも沿岸部の集落に順次建ち始めている。

藤森ゼミのビデオは「私たちの見たハンセン病問題」榎雄二さんと考

は近い将来、解体が検討されている。ゼミ生は11月に再び同地を訪れ、ビデオを収録。女川町の須田善明町長をはじめ、定期船運航会社で船の管理・運航を行う会社役員、ボランティア活動家らにインタビュー、被災地に残る震災遺構を巡る住民の思いや悩みも聞いた。

また、町立女川中学校内にある高さ2.5メートルの「いのちの石碑」を紹介。自宅を流された3年生らの発案によるもので、石碑はほかにも沿岸部の集落に順次建ち始めている。

藤森ゼミのビデオは「私たちの見たハンセン病問題」榎雄二さんと考

榎雄二さんと考

沖繩で今、なにが起きているのか。沖繩を代表するジャーナリストから米軍・普天間基地移設問題を聞く講演会が2月18日、サテライトキャンパスで開かれた。



講評する藤森教授(右は山田教授)

師や案内役を務め、学生に沖繩の姿を多方面から紹介している。

当日は、長元さんが持参した沖繩タイムスの最近の紙面が掲げられ、冒頭、「基地問題を考える」が念頭にあるかどうか

「復元し、資料館として開設する計画が進む。発表後、後輩の南雲亮平さん(2年次)が「震災遺構のように元患者の間で賛否両論の意見の対立はなかったのか」と質問。

「基地問題を考える」が念頭にあるかどうか

「基地移設については幅広い視野を持ち、政府、市民が一緒になって考えるべきだ」

「基地移設については幅広い視野を持ち、政府、市民が一緒になって考えるべきだ」

「基地移設については幅広い視野を持ち、政府、市民が一緒になって考えるべきだ」

## 社会学科優秀卒業論文発表会

### 代表3人が要旨説明



左から竹内さん、星野さん、山内さん

代表に選ばれた論文は、未婚者における独身理由に関する結婚(講評・呉佳さん)▽山内夏穂さん「縮小する世間」とマナーの局所化(他者がいることの意味)(同・グエン・トアン・コイさん)▽特別聴講生)▽竹内麻子さん「教師からみるスクールカーズ」これからの学校の姿(同・小沢明彦さん)修2)。

若者の未婚化を取り上げた星野さんは、少子化

の進行は労働力不足を生み、経済活動や社会保障に大きな影響を及ぼすと説明。結婚が個人の課題から社会問題に発展しているとして、若年層未婚者の20〜34歳が結婚しない、結婚できない理由を東大社会科学研究所の調査データから分析した。

山内夏穂さんは「なぜ電車内で携帯電話の通話を聞かす」と不快になるのか」という疑問を出発点に、マナー違反と私の空間認識の関係を迫った。周りの目を気にする「公恥」と、自分の中

「日本人は集団主義のイメージで見られるが、世間で準じて行動してきただけ。個人主義といわれるのも『ミウチ世間』に配慮するようになった結果だと説明できる」と山内さん。マナー

竹内さんの結論は「生徒の学力、ベテラン教師の存在、自由な校風などがそろえば、スクールカーストを利用した学校運営が期待できる。これに対して聴講した学生や教員から『スクールカーストを作っているのは教師』という指摘が、先生が驚き▽生徒の個性と能力を生かした自主的な学級運営という意味だろう

「指定試験奨学生」の授与式が2月20日、生田キャンパスで行われた。阿藤正道学部長のあいさつに続き、高原隆明奨学生担当委員長から9人に奨学金が贈られた。

阿藤学部長(中央)と奨学生たち

優秀な卒業論文を学科全体で共有する人間科学部社会学科の代表論文発表会が、1月29日に生田キャンパスで開かれた。

代表に選ばれた論文は、未婚者における独身理由に関する結婚(講評・呉佳さん)▽山内夏穂さん「縮小する世間」とマナーの局所化(他者がいることの意味)(同・グエン・トアン・コイさん)▽特別聴講生)▽竹内麻子さん「教師からみるスクールカーズ」これからの学校の姿(同・小沢明彦さん)修2)。

若者の未婚化を取り上げた星野さんは、少子化

の進行は労働力不足を生み、経済活動や社会保障に大きな影響を及ぼすと説明。結婚が個人の課題から社会問題に発展しているとして、若年層未婚者の20〜34歳が結婚しない、結婚できない理由を東大社会科学研究所の調査データから分析した。

山内夏穂さんは「なぜ電車内で携帯電話の通話を聞かす」と不快になるのか」という疑問を出発点に、マナー違反と私の空間認識の関係を迫った。周りの目を気にする「公恥」と、自分の中

「日本人は集団主義のイメージで見られるが、世間で準じて行動してきただけ。個人主義といわれるのも『ミウチ世間』に配慮するようになった結果だと説明できる」と山内さん。マナー

竹内さんの結論は「生徒の学力、ベテラン教師の存在、自由な校風などがそろえば、スクールカーストを利用した学校運営が期待できる。これに対して聴講した学生や教員から『スクールカーストを作っているのは教師』という指摘が、先生が驚き▽生徒の個性と能力を生かした自主的な学級運営という意味だろう

「指定試験奨学生」の授与式が2月20日、生田キャンパスで行われた。阿藤正道学部長のあいさつに続き、高原隆明奨学生担当委員長から9人に奨学金が贈られた。

阿藤学部長(中央)と奨学生たち

阿藤学部長(中央)と奨学生たち

阿藤学部長(中央)と奨学生たち